



三人の方です。
十一月二日から六日までの、わずか四日間の留滞滞在でしたが、市内の各界代表との経済、貿易などに関する話し合い、学校や保育所などの教育や児童施設を、そして市内の水産加工場では珍味等の製造過程や木材工場、合板工場などを短時間で留滞の街の姿を自らの目で確かめ、肌で感じていただいたようでした。また、代表団が訪問中の十一月三日には、市民が待望していた市民センターの落成式が挙行されました。



ウ市助役
リンチノヴィッチさん

市民のみなさん “こんにちは”

私たちの姉妹都市、留滞を訪問することができ、心から嬉しく思います。
また、市民待望の市民センターの落成式にも出席させていただき私の思い出に一生に残ることとしたいと思います。

先に訪問されたウベエフ市長にも聞いていましたが、日本海に面した留滞の街は、本当に美しい街であり、海と緑に囲まれたこの自然景観は、私たちのウ市と変わりがありません。
また、学校、保育所、各センターなども整備されており、都市機能の充実に感心しました。
今後、より積極的に交流を進め留滞市とウランウデ市が、固く結ばれた姉妹であるよう努力して行きたいと思っております。

固く友情の握手が交されました。

留滞市とウランウデ市は堅く結ばれた姉妹都市です。
より親愛と友情の輪を深めましょうと、留滞市と、ソ連邦プリアート自治共和国ウランウデ市とが正式に姉妹都市の縁結びをしてから二年目を迎えました。

留滞を離れる六日には、原田市長と代表団は、今後の留滞とウ市とのより親善を深めるための「交流計画書」に調印、貿易の振興、人の交流など、積極的に進めることに相互努力することを約束し、

ようこそウ市代表団

より友好の絆 を深めるために



菊まつり会場は日本の伝統に目をみはる

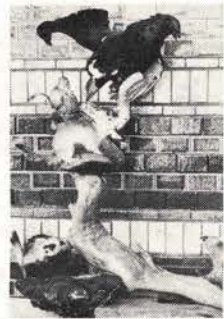
ことしも交流計画に添って村上副議長らが留滞市民代表団としてウ市を訪問、それにこたえて、さる十一月三日、ウ市から三人の代表団が留滞市を公式訪問。
この代表団は、団長にウ市助役のリンチノヴィッチさん(三十九歳)、ウランウデ機関車輛工場長のセミヨノヴィッチさん(五十七歳)、女性で中等学校校長のニコラーエヴナさん(五十三歳)の



ウ市コーナー前で市長と



今回訪問のウ市代表団からは、トナカイの壁掛け用剥製などが留滞市に贈られました。
このトナカイは、生後十二年生の雄でツノの長さだけでも一メートル以上あります。



この他、ウ市近隣に住むリス、野ネズミ、小鹿などの剥製など十数点が贈られました。
この剥製は、市公民館ロビーにウ市コーナーを特設し、展示されています。
また、トナカイの壁掛剥製は、公民館ロビー正面に飾られています。

貿易なども積極的に

ウラン・ウデ市との昭和四十九年度交流計画覚書に、十一月六日相互に調印を行いました。
この交流計画では、両市の文化経済のほか、親善使節団を相互に招待することになっています。
その他、相互の貿易品目の一覧表を交換することになりました。
留滞市とウラン・ウデ市は、昭和四十九年(一九七四年)に親善使節団を相互招待する。
留滞市とウラン・ウデ市は、経済関係の推進に積極的に努力する。
この目的のために、お互いの貿易の品目一覧表を交換する。

また、この調印にあたっては、特に技術などの人々の交流や木材などの貿易を積極的に進めることなどを今後の目標とすることを約束しました。

留滞のマチは すてきです

五十嵐君がインタビュ

訪問団は十一月五日、留滞小学校を訪ねたが、その際に生徒代表として、図書委員長の五十嵐君が校長先生であるニコラーエヴナさんにインタビューを行ないました。その話の中から拾ってみました。

留滞の印象はいかがですか。

とてもいい街だと思います。特に昨日見た文化センターはとてもよかったです。留滞は冬は雪が一メートル以上も積りますがウ市はどうですか。

ウ市も大変に雪は降りますよ。それととっても寒く、留滞は問題になりません。

日本は小学校は一年から六年までですが、ウ市はどうですか。

一年から三年までが日本の小学校にあたり、四年から十年までは中学校生にあたり、また八年制の学校もあります。勉強の中にはどんなのがありますか。

小学校ではロシア語、その上に行くフランス、スペイン、英語などの他、数学、物理、絵、体育労働、工芸などもあります。



調印式で



保育所で



ペニヤ工場



市内の水産加工場で



留滞小学校では1人1人にインタビュー